

今月の呼点

●道路右から横断する高齢者に注意する

●防災マニュアルを再確認する

交通安全重点目標

高齢者を守る運転を实践しよう



防災意識を高めよう



乗務員に対する指導及び監督

ポイント

- 事業者は、運送事業に係る主な道路状況、運行状況、運行の安全を確保するために必要な運転の技術、自動車の運転に関して遵守すべき事項について、運転者に適切な指導・監督をしなければならない。
- 事業者は、次の運転者に対して、運行の安全を確保するために、特別な指導と国土交通大臣が認定する適性診断を受けさせなければならない。
 - (1)死者又は負傷者が生じた事故を引き起こした者
 - (2)運転者として新たに雇い入れた者
 - (3)高齢者(65歳以上の者)
- 事業者は、事業用自動車に備えられた非常信号用具及び消火器の取扱いについて、乗務員に対して適切な指導をしなければならない。
- 運行管理者は、乗務員に対して、指導・監督及び特別な指導を行い、並びに運転者に適性診断を受けさせなければならない。
- 事業者は、従業員に対して効果的で適切な指導・監督を行うために輸送の安全に関する基本的な方針の策定など告示で定める措置を講じなければならない。
- 新たに雇い入れた運転者に対しては当該運転者の事故記録を把握しなければならない。

適性診断とは



月間 P.D.C.A サイクル (2023年9月)

Plan (計画)

- ・9月の安全運転重点項目
- ・高齢者を守る運転を实践しよう
- ・防災意識を高めよう

- ・9月の重点運行管理
- 乗務員に対する指導監督 (初任、高齢、事故惹起者研修と適性診断)

Do (実施)

- ・具体的な取組項目

Act (改善)

- ・9月の反省点

- ・次月の計画に向かった改善点

Check (評価)

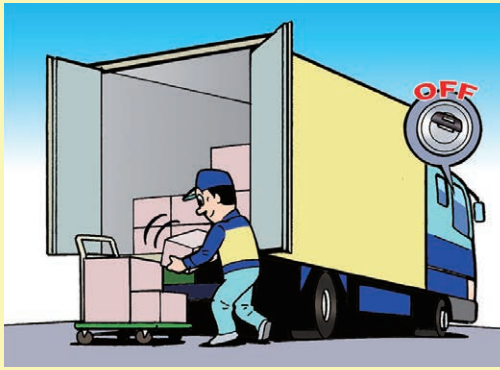
- (取組に対して)
- ・うまくいった要因

- ・うまくいかなかった要因

SDGsに取り組もう

13 気候変動に具体的な対策を

地球温暖化は、二酸化炭素が地球の上空を覆い「温室効果ガス」となることで地球が暖められ、気温が上昇します。トラックもエンジンが動いている間は CO₂ を排出するため、アイドリングストップは CO₂ 削減に効果的です。荷積みや荷下ろし時、休憩・仮眠時にはアイドリング・ストップを実施しましょう。



日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
27	28	29	30	31	1 大安 あぶないよ カーブでタイヤが 泣く速度	2 赤口 裏通りと 思う気持が 事故のもと
3 先勝 危険予知 絶えず続けて 絶える事故	4 友引 とっさの時に間に合うか 今の速度と車間距離	5 先負 腕よりも間よりも経験よりも 要所要所の危険予知	6 仏滅 便利さを 知って忘れる 車のこわさ	7 大安 車でず 義理は欠いても 飲みません	8 赤口 白露 お年寄り 見たら減速・最徐行	9 先勝 あなたの注意にまざる ブレーキはない
10 友引 災害は 慣れと 手ぬきと 油断から	11 先負 忘れるな 基本動作が身を守る	12 仏滅 危険に対する感受性 高めて生かそう 危険予知	13 大安 運転は 命がけより 心がけ	14 赤口 気を付けて 見えない角に 小さい手	15 友引 いい顔に 見えます 笑顔でゆるる人	16 先負 われ先に 急ぐ心に 事故が待つ
17 仏滅 健康で 結ぶ 職場と明るい家庭	18 大安 敬老の日 確かめる 心のゆとりで事故はなし	19 赤口 君にも出来る安全作業 ルールを守って無災害	20 先勝 交通事故！ 時なし場所なし 予告なし	21 友引 「まさか」より 「もしも」のために まずベルト	22 先負 ドアしめて ベルトをしめて 気をしめて	23 仏滅 秋分の日 一杯だけ 心の軽さが 重い事故
24 大安 安全は 一人ひとりが 責任者	25 赤口 気をつけて 積み過ぎ 出し過ぎ 働き過ぎ	26 先勝 ベテランも 心に青葉のマークつけ 初心にかえて 安全運転	27 友引 運転に あつてはならない 「まあ いいか」	28 先負 口笛が 悲劇に変わる 帰り道	29 仏滅 軽い気持ちの駐停車 思わぬ迷惑 事故のもと	30 大安 交通安全死 ゼロを目指す日 人生の 長さを決める 車間距離



日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

9月の安全行事・暦

- ・点検整備推進運動 (1日～[10月31日])
- ・秋の全国交通安全運動 (21日～30日)
- ・交通マナーを高める事故防止コンクール・セーフティラリー京都 (～30日)
- ・交通事故死ゼロを目指す日 (30日)

